



## 読書の秋 ～本を読むということ～

校長 五明 早苗

今年の夏は例年以上に暑く、本当に秋が来るのか疑わしく思える時もありましたが、ようやく暑さも和らいできました。秋といえば「実りの秋」とか「食欲の秋」とか「勉学の秋」いろいろなことが言われますが、「第四中だより」の推しは「読書の秋」です。

ところで、なぜ読書は推奨されるのだと思いますか。

読書の醍醐味はたくさんありますが、まず中学生の皆さんに味わってほしいのは、「本の世界を通じてさまざまな経験をする」ということです。外国に行かなくても、外国が舞台の小説を読めば、その国のことを思い描くことが出来るし、平安時代に書かれた本を読めば、平安時代の登場人物の思いを知り、共感し、疑似体験をすることも可能になります。漫画や映画、ドラマでもできますが、小説の方が疑似体験という意味においては、登場人物の気持ちをより深く知ることが出来るようです。



「君の名は。」「天気の子」「すずめの戸締り」などの映画を撮った新海 誠さんが「同じ題名の「小説版」では、「アニメ」で表現しきれなかった感情の部分を補うことができた」と書いていらしたのを読んで、映画と小説、両方の特徴を改めて認識することができました。映画では、映像の中で、登場人物の行動と会話だけで表現した部分を、小説版ではその言動に至るまでの登場人物の気持ちの推移を文字にして表現できたというのです。これから読む人のために詳細は伏せますが、映画を見たことがある人は小説を読んでそれぞれの登場人物に寄り添って、泣いたり、笑ったりしてみてください。映画とはまた違う世界を実感することが出来ると思います。

自分の人生の中で経験しきれないことを本の世界で体験することによって、いろいろな立場から、違った考え方があることを知ることが出来るのが読書です。「自分だったらこんな行動はしない」ということも、本を読み進めていく中で、立場を変えて考えられるようになり、その行動をしたときの登場人物の気持ちが理解できるようになるかもしれません。

本を読んだ数だけ、あるいは登場人物の数だけ、人生経験ができるといえるかもしれませんが。見方や考え方は、誰もが同じではないということは、たくさんの本を読むことで実感出来ることでしょう。時代や国や立場が変われば、同じものを見ても違うことを思うのは自然なことです。たくさんの本を読んで、他人の立場や気持ちを思いやることができるようになるといいですね。

## 10月の予定

- 1日（火）足立区民の日・都民の日
- 2日（水）部活再登校（16：00）
- 3日（木）学年・各種委員会
- 4日（金）スタディプラス
- 7日（月）心の声・WEBQU（第1学年）
- 10日（木）スタディプラス
- 11日（金）終業式（給食なし）
- 12日（土）連合体育大会（夜間学級）
- 14日（月）スポーツの日
- 15日（火）始業式・認証式
- 18日（金）学芸発表会
- 19日（土）学芸発表会（給食なし）→お弁当を持参してください。
- 21日（月）振替休業日
- 22日（火）脊柱側弯症検診（第2学年）
- 24日（木）進路学習会（第3学年）  
連合英語学芸会
- 25日（金）スタディプラス・WEBQU（第3学年）  
漢字検定
- 28日（月）生徒会朝礼
- 29日（火）三者面談始（第3学年）11月7日まで
- 30日（水）あだちからの日



## 前期と後期の節目の月に

十月は学校の年度では、一年間の折り返しの月にあたります。

生徒の皆さんには、前期から後期へ替わるこのタイミングで、生活面、学習面ともに自己の振り返りを行ってほしいと思います。振り返るときには、自分の成長（頑張り）を確認するということをポイントにしてください。

できなかったことを数えるのではなく、できるようになったことを確認して、後期はそこからレベルを上げて、目標を立てるようにしましょう。

たとえば、家庭学習が定着できるようになった人は、「学習時間を増やすことを後期の目標にする」など、常にレベルアップを目指していくように心がけてください。皆さんの可能性は無限です。

